

月例研究会抄録

平成22年度明倫短期大学学会月例研究会は、平成22年4月22日の第43回から10月28日の第48回まで計6回開催された。8年に及ぶ当研究会における総演題数は90に上る。また前身の明倫短期大学研究会からの通算回数は131回に上った。歴年の演題名等は学会HPを参照下さい。

第43回 (通算第126回) : 2010年4月22日 (木)

(座長: 金子 潤)

臨床から教育の現場へ

川崎律子 (歯科衛生士学科)

歯科衛生士になって20年数年経過いたしました。歯科界ではこの20年の間にも従来型の「治療中心型」から「予防中心型」への大きな変革があり、その移行とともに私達歯科衛生士の担う責任はますます大きく、役割も多様化してきていると実感しています。

臨床を長く続けてきたことにより、文献や講演会だけでは学べないたくさんのお話を習得することができました。また、長年、口腔の疾患で悩んでこられた患者様が、私達歯科衛生士と出会うことで、QOLが豊かになり人生に希望を持たれる姿を多く拝見し、歯科医療を通じてそのような支援ができるすばらしさを実感いたしました。

この臨床の現場で得た知識・技術とそして患者様と一緒に泣いたり笑ったりできる感動を教育の現場でお伝えしていきたいと思っております。歯科衛生士の楽しさを学生の皆さんに知っていただきたいと思っております。

これからの歯科医療には、患者様をサポートしていくうえで、院内の総合力の向上とともに、私たち歯科衛生士一人ひとりの働き方に大きな責任が課せられています。今後は社会で活躍できる歯科衛生士の養成に貢献していきたいと考えております。

歯周組織の健康と補綴装置

河野正司 (歯科技工士学科)

I. 補綴装置の目的

補綴装置を使用する目的の主要事項は下記のようなものである。①顎口腔系の機能と形態の回復②顎口腔系に為害作用を及ぼすことなく、回復状態の長期間の

維持

⇒これらの目的達成のためには、「歯周組織の健康を保てる補綴装置であること」が必須である。そこで、補綴装置の歯周組織への為害作用例を示し、その具体的な対策について論じた。

II. 補綴装置の歯周組織への為害作用例

1. 歯根膜への不適切な負荷

症例: 不適切な歯のガイドによる補綴歯の脱落 レストの機能不全による咬合痛と辺縁歯周組織への外傷

対策: 荷重に対する歯根膜特性の理解 「荷重-変位曲線」とは

2. クラウン歯頸部の適合不良

症例: 前歯部支台歯のショルダーからオーバーハンクしたクラウン歯頸部 軸面豊隆形態の不良

対策: 歯科医師と歯科技工士は基本的に忠実なこと

3. クラスプの抜歯鉗子作用

症例: 機能しない拮抗腕 (bracing arm)

対策: ミリングした拮抗腕 I-barの適応 テレスコープの適応、これについては重度な歯周病罹患歯に対する対応例を供覧した。

III. 重度な歯周病罹患歯に対する対応例

可撤性 (テレスコープ) クラウンを適用することにより、次の事項が可能となる。

それによって、重度な歯周病罹患歯の管理が容易に、確実に行われる様になった。

① 歯頸部不潔域の可撤化

② PMTCの確実な実施が可能

この症例の詳細は下記の論文を読んで頂きたい。

大沼誉英, 小林 梢, 生野美絵, 水橋庸子, 河野正司: 高度の歯周病罹患歯の補綴処置法とオーラルケアからみた評価, 明倫歯科保健技工学雑誌, 13 (1): 24-31, 2010.

第44回 (通算第127回) : 2010年5月26日 (水)

(座長: 野村 章子)

臨床技工プロ講座の紹介と本科の技工実習に取り入れたいこと

伊藤圭一 (歯科技工士学科)

生体技工専攻で開講されているキャストパーシャルデンチャー特論は「誰にでも簡単にわかる・できるキャストパーシャルを学ぶ」を講座のテーマに掲げている。講師の金井孝行臨床教授から、ビギナー